



あきらめて
 がんばります

今年2月開通
 生名橋

いきなま
 生名島

さしま
 佐島

あきらめて
 がんばります

いったい誰の責任か

あけましておめでとうございます。昨年弓削通信を復活させ、その名もフェニックスとし、すこしはきびしく、しかしかなり柔和に記事を書いてきたつもりです。

筆者の友人はことあるごとに、指導者の立場にある者は人々に勇気を与える言葉を発しなければなりませんと言います。その通りかも知れません。しかし筆者は指導者ではないので、これからは厳しい言葉を発していかざるを得ないと自覚しています。

一方、名実共に指導者の立場にある首長は、まさしく出来の悪い部下に対してでも、勇気を与える言葉を発し、その持てる能力を發揮させるのがつとめです。間違っても多くの町民の前で部下を批判するようなことをすべきではありません。

昨年は、首長のそのような有様を沢山見聞しました。今年こそはそのような有様を見ないで済む事を心から願います。

依存心からの脱却 究極の高齢化を恐れまい

実質高齢化率40%の現実

私達の町の未来をみるとき、歯の浮いたようなバラ色の夢を語ることは出来ません。そのことをしづかに、しっかり認め、では私達はどうかすればいいのかを考える必要があるのではないかと思います。

俗に無い袖は振れぬとは申します。求めて詮ないことを求めつづけ、それが実現しないこと

を他者のせいにしてもなお詮のないことです。それよりは、今まさに沈まんとするこの船を、ともかくにも陸地に近づけるには、全ての人が力を合わせ、水をかい出し、オールをこぎ、方位を確かめと、持てるあらゆる能力を出し惜しみすることなく働く以外にありません。

自治体の活力を計る高齢化率を見ても、我が町はおよそ36%。しかしこの中には国立商船高専の学生も含まれています。高専の問題は少子化と密接に関連しており、今後学校の存続そのものもどう変転してゆくか

不透明です。学校の経営にたずさわっている人々に、この学校が、この地に呱呱の声を上げた頃の熱意と使命感を求めるとも、いわば無い袖をもとめることに等しいと、近年強く感じるところです。さすれば学校が縮小されたとして考えれば、高齢化率は40%にも50%にも、たちどころに至るのが現状です。

自立心の強い町民に

いまさら危機感を持つなどとは申しません。なんとか沈まないでいるために頑張りましょうと呼びかけるのみです。そのためには、若い人の働く場でもある役所の人的改革も避けては通れないでしょう。新人採用に際してもコネや縁故採用を廃し、魅力的な雇用条件を提示しつつやる気のある人材を町外からでも採用する。役所の機構も効率を優先し、一時は人口減になっても後の施策で盛り返す、そういう真の改革が必要です。当然今のようならしない議会だって刷新せねばなりません。

急激な改革を望まない人にとってはとても勇気のわく言葉ではありませんね。しかしこれが現実です。

キーワードは住民の自治力

われら高齢の者が動こう

近年、若い人の孤独死とか、幼児を実親が殺めたり虐待する事件、老老介護に疲れた者が犯す事件、老若を問わず鬱病を発生し社会生活からこぼれ落ちていくなど、とかく暗澹たる出来事が多い中、その原因のひとつに近隣とのつながりの希薄さもあげられています。いまそれを社会病的に論じることよりも大切なことは、世の流れをみてそのように感じるなら、まずはその再構築に向け踏み出す、「積極的に動きだす」気概ではないかと感じます。

論は動を伴ってこそ意義ありです。私達は昔からそのように躰けられてきました。それを思いだし、まずは己が助かるために我々年のいった者が力を振り

絞る。多くの人がそれを実践すれば、きっと道を見いだすことができるかと信じています。

そういう果敢な動きが可能なのは、じつは小さな自治体だからこそです。住民自治力。今後のキーワードだと思います。

たった一年、されど一年

今年は毎年やって来る年のひとつにすぎませんが、二度とない年でもあります。「弓削通信・フェニックス」を読んで下さる皆様と、たとえ異論があろうと無かるうと、共に同舟の一人として精進して参ります。どうかよろしくお力添えをお願い致します。

皆様方にとって「良かった」と思われる一年でありますよう心よりお祈りいたします。

平山和昭

あひまち (8)

青木喜代子

お正月が来ると思い出すことがある。
 お雑煮を作っている時から気になって遂に夫に聞いた。
 「関西空港の別名は何空港？」
 「関空じゃないか？」「もつと他の片仮名の」「質問の意味が分からん！」
 ずいぶん前の元旦の出来事。アエラに載っていたのを思い出して探したが、年末に片付けた様子で見あたらない。唐突ではあるがアエラ編集室に電話をした。正月休みで出るわけないワ、と。
 「ハイ、アエラ編集室でござい

ます」スカットとした都会的な声。予想外の展開に思わずおじぎをした。
 「お尋ねしたい事があるので、関西空港は別名なんと言いますか？」「ハア？」「エー、つまり動物の名前でアジとか



サバとか・・・」「今担当の者が席を外しておりますので後ほどご連絡差し上げます」
 普通ならここで、いやいや結構ですと受話器を置くのだからうけど、単純、ミーハーな私はあのアエラとつながりが出来

ると電話番号を伝えた。それから正座でもして待てばいいものを妹と出かけたものだから何も知らない夫は
 「先ほどのお尋ねの件はハブ空港だと思えます」との電話で昼寝を中断され機嫌が悪い。思うに担当の人は愛想のない男性だったのでは・・・
 「ハブか。なーんか動物だったと思っただけ・・・」すっきりした私を見て夫も妹も苦笑い。
 「この誰かは知らないけれど、アジだのサバだの、正月早々にやんなっちゃうよね。市外局番からすると田舎のおばちゃんだね」なんて笑われたことだらう。
 その後アエラとはなんのつながりもないまま、ほどなく購読も止めた。ごめんなさい。

尾道駅前
シネマ尾道 『その街のこども 劇場版』
 1月29日～2月18日
 大きな感動を呼んだ阪神・淡路大震災15年特集
 ドラマが異例の劇場公開。脚本・渡辺あや、舞台
 挨拶決定(詳細は劇場まで)監督：井上剛 脚本：渡辺あや
 出演：森山未來、佐藤江梨子、津田寛治、白木利根 83分
 詳しくは ☎0848-24-8222 HP <http://www.cinema-onomichi.com/>





議 見 聞 記

昨年12月定例議会では非常に疑問に思えることがいろいろあった。すでに新聞各紙の報道で内容は知れているのでここでは「首長(町長)の説明責任」というものについて考えてみたい。

自治体首長の説明責任とは何か

事件の概要は、上島町生名にあるスポーツ合宿施設「いきなスポレク公園」を管理する第三セクター(社長・上島町長)が、約470万円を着服した職員を懲戒解雇(2009年11月)していた、というもの。

ここで考えてみたいという「首長の説明責任」とは、その事件に関し、昨年の12月定例議会でその経緯の説明を求めた一般質問に対し「公表をしないことを前提に(職員を)処分した」ので説明はしないと答弁したこと。

「いきなスポレク」には町から公金が三千万円の委託金として出資されている。しかも町長が社長。そう言う会社の場合、横領事件等があれば、普通ならば問われなくても議会に経緯と今後の防止策、ならびの監督責任者の処分が説明される。しかし問われた町長は、そのような質問を議会でするのはいかなものかと、質問する議員を批判した。(筆者注:誤解なきように添えると、職員の名を公表せよとか言うのではなく、そのような事件があった顛末は公表すべきだと言う趣旨の質問だった)

その一方で町長は、着服した金は返還され、職員が公務員で

はなく、本人も反省しており、家庭環境も考慮して公表も刑事告訴もしないと決めたと、その議会の途中で開いた記者会見で述べている。(新聞報道)

その記者会見ではまた、「三セク会社の管理責任は私にあり町民にはおわびしたい」と述べたとされる。(実質的公表)

記者会見後、議場に戻った町長は、それらに関することは一切触れず議会側もあえて糺すことはしなかった。したがって記者会見の内容は、翌日の新聞報道で町民の知るところとなったわけだ。

傍聴者の眼から見れば、それこそ町長としていかなものかと問いただしたいところだ。

記事を書いている現時点では、記者会見で述べられた防止策とは「金を扱う者を複数にする」といったぐらいのことで、管理責任者の処分も議会には報告されていない。

町長はその12月議会開催前の議員全員協議会で「もし処分された者に今後(事件が公開されたこと)何か起きてても議会は責任をとれるのか」と、暗に質問の取り下げを求めたと聞く。お願いだそうだ。

さて読者はこの一連に関してどういう感想をもつであろうか。

首長の説明責任は果たされていると考えられるであろうか。

説明責任とは首長の恣意に委せて済む話だろうか。

事件を起こした職員の家庭環境も反省も、それはどんな事件に対してもついて回るのだ。

やっではならぬことが露見し、処分された後の、その者に発生する事に対する責任は、本人起因である以上本人にある、というのが社会通念だ。

官が深く関係する会社に於いて、悪事を犯しても法的に処断されねば罪とは成らず、よって本人救済のために法の場での説明を求めないというのであれば、専決処分乱発でリコール解任された鹿児島県久根市、竹原前市長の、自治法の定めにあることに反する行為をしても「裁判で違法とされない限り」違法とは言えない、とする思想にそっくりだ。

町の公金を注入して運営している会社であって、そこで起きた事件に関し議会に説明しなくてもいいという考えは、どこか

ら生まれてくるのであろうか。

道理に合わぬ方法論を糺す側に事件公表後の結果責任を問うなどという責任転嫁の思想は、どこを押せば生まれ出るのか。

言うまでもなくそれは専制国王の思想だ。まさに面妖と言うの他はない。

ここまで大きく事件の傷口を開いたのは、ほかならぬ最高責任者(この場合三セク社長でもある町長)の、事件を隠蔽したいという強い意志ではないのか。

事件発覚時、淡々と処分ほかを公表しておれば、新聞の小さな記事にしかならなかったかもしれぬ着服事件。事ほど左様に隠さねばならぬとすれば「他にも理由があるのでは?」となるのは自然な流れだろう。

かくの如き独善的感覚で町政運営がなされているのか?。

町長のみではない。議会人士のその後の動きも、誠に頼りなく寒心に堪えない。

「思いやり」「暖かい心」「優しさ」とかの意味も深く誤解しているとしか思えないからだ。

(平山和昭)

おたよりから

●昨年十二月初め弓削神社の参拝旅行に参加させて頂いた。新幹線博多駅で、夕食の弁当を運んできた人が「弓削神社」という文字に反応、理由を聞くと、道鏡は不当に貶められていると感じ入り早速道鏡を守る会の冊子を送った。出会いが実を結ばば嬉し。



平山様
先に道鏡の冊子を送って頂きありがとうございます。十二月は弁当、仕出し屋は忙しく十分に目を通せません。正月三日にじっくり拝読し、またご連絡を致します。

腹をくくりて

二兎追わず

ともぎ 安藤朋生 茨城県



新年開けましておめでとうございます。昨年は皆さんに大変お世話になりましたこと心よりお礼申し上げます。有り難うございました。

遠く離れた土地の私に、島について書く事を温かく迎えて下さった弓削通信の平山さん、あなたは私の恩師でございます。ゼロに近い可能性に惜しみなくエネルギーを注いで下さったこと、この場を借りて心より感謝致します。本当にありがとうございます。

まだまだ未熟な筆さばきではございますが、本年も心を込めて皆さんにお届け出来るよう尽くす所存でございます。皆様の心と体が健やかでありますように。また1年宜しくお願い致します。

さて、まだ6回目だというのに筆が中々進まず(泣、こんなことでどーする自分!と喝は入れるものの、今回は全く良い勘が回って来ないまま年を越してしまいました。ですので、この6回目は新年ということもあり、今年の抱負を考えるべく、昨年を振り返って次回に繋げるやや強引な趣向で進行してみよ〜かと・・・振



り返り確認する事って、時にはとっても大事なことでしょ?(なんちって♪)

弓削通信を毎月送って下さる平山氏は毎回辛口。そして強い。正にフェニックスといった感じ。

毎回勉強になるのですが、私に求められているのは辛口な表現ではなく自分らしい表現。辛口通信の平山氏、アドバイスはとっても優しいのです。そして勉強になるといえばもう一方。大好きなんです!青木喜代子さんの書く『きどぐち』。ファンなんです!

毎回通信の隅々まで読んで、最後にきどぐちを何度も何度も

読み返します。面白い!それをお手本に頑張るのですが、何が違うのかうまい事いきません。

書き手が違えば表現も違う。見ている視点が違えば感じることもさえも違ってくる。そして生活基盤の違いってやっぱり大きいと再確認。

島に暮らさない私達内地の者は、憧れで島を見てしまう。憧れて飯は食えない。憧れる事は悪い事じゃないけど、どうせ暮らすなら、何か起こす気で島に上陸したい!素直に尊敬出来る方達に出会えるなんて思ってもみなかった感激を、実際に何か形に出来ればいいのに・・・

良い言葉を見つけました『風雲の志』。受験生の諸君!この言葉、必ず辞書引くよーに*